

特別支援学校(知的)における授業の「振り返り」の検討

～振り返りに関する共通実践事項の設定と教職員に対するアンケート調査の分析を通して～

○池田和馬
(秋田県立ゆり支援学校)

藤井慶博
(秋田大学大学院教育学研究科)

KEY WORDS: 振り返り、学習評価、授業改善

I 目的

特別支援学校学習指導要領解説総則等編（2018）では、「学習評価は、学校における教育活動に関し、児童生徒の学習状況を評価するものである」と示されている。一方、2016 年 12 月の中央教育審議会では、学習評価により教師が指導の改善を図るとともに、「児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるためにも重要である」と、児童生徒自身による学習評価の充実が改善すべき課題として挙げられている。このように、児童生徒に何が身に付いたかを明確にしながら、児童生徒自身が主体的に次の学びや生活に生かすことのできる目標設定と振り返りの在り方を検討し、その充実に向けた実践を積み重ねる必要性があると考えた。

そこで本研究では、知的障害特別支援学校における「振り返り」に焦点を当てた授業改善を行い、その成果と課題を明らかにすることを目的とした。

II 方法

(1) 実践

A 県立 B 特別支援学校において、「振り返り」に焦点を当てた授業改善に向けた 4 つの共通実践（1：児童生徒による評価が可能な「めあて」の提示、2：一単位時間の結末及び、単元のまとまりでの「振り返り」の設定、3：「めあて」と「振り返り」カードの活用、4：「めあて」と「振り返り」の整合性の検討）を全校で推進した。なお、表 1 に共通実践事項の項目「2：一単位時間の結末及び、単元のまとまりでの「振り返り」の設定」について全校、各学部で取り組んだ具体的な内容を示した。対象とした授業は、小学部は国語科、中学部は保健体育科、高等部は職業科、家庭科であった。

(2) 分析方法

A 県立 B 特別支援学校の全教員 72 名（小学部：23 名、中学部：18 名、高等部：31 名）に対し、授業での評価や振り返りに関するアンケート調査を 2 回（1 回目：20xx 年 4～5 月、2 回目：20xx 年 12 月）実施し、64 名（88.9%）から回答があった。それぞれの項目について、「よくしている」（4 点）、「ときどきしている」（3 点）、「あまりしていない」（2 点）、「ほとんどしていない」（1 点）の選択肢により回答を求め、平均値を比較した。なお、研究の公表に関して学校長からの承諾を受けた。

III 結果

- アンケート調査の結果を表 2 に示した。
- ・全体の 1 回目に比べ 2 回目で、すべての項目の平均値が上がった。
 - ・平均値が大きく伸びた項目の上位 3 つは、「③日頃から授

表 1 「振り返り」として取り組んだ内容

学部	主な取組内容
共通	・感想を書く・感想を発表する・他者評価
小学部	・めあての評価（○、△）・できたことの再現 ・教師側のまとめ（他者評価）・評価の動作化
中学部	・動画の確認・生徒同士のアドバイス（相互評価） ・自分の成果と課題に基づく、次時の目標設定
高等部	・めあてに対する評価（自己評価）・評価テスト ・学んだことの集約（板書によるまとめ） ・動画の確認・実演によるテスト（ロールプレイ）

表 2 「振り返り」に関するアンケート調査結果

項目	学部			全体	
	小	中	高	平均	増減
①単元（題材）や 1 単位時間毎に一人一人の子どもの成長を評価している	2.65	2.88	2.77	2.77	+0.50
	3.20	3.39	3.25	3.27	
②日頃から「振り返り」のカードを使って授業をしている	2.33	2.53	2.38	2.41	+0.49
	3.10	2.44	3.08	2.90	
③日頃から授業のゴールから「めあて」を設定している	3.06	2.81	2.69	2.83	+0.61
	3.30	3.56	3.46	3.44	
④児童生徒が学んだことを整理したり、自分の考えをまとめなおしたりする時間を保障している	2.50	2.53	2.62	2.56	+0.38
	2.80	2.94	3.04	2.94	
⑤活動や振り返りの際に、学習の成果を見取り、価値付たり意味付けたりしている	2.78	2.65	2.88	2.78	+0.40
	3.25	3.22	3.08	3.18	
⑥次の学習への意欲や見通しをもたせてから授業を締めくくっている	3.29	3.00	3.15	3.15	+0.08
	3.05	3.39	3.26	3.23	

※上段は 1 回目（4～5 月）の平均値、下段は 2 回目（12 月）の平均値

- 業のゴールから『めあて』を設定している」（+0.61）、「①単元（題材）や 1 単位時間毎に一人一人の子どもの成長を評価している」（+0.50）、「②日頃、『振り返り』のカードを使って授業をしている」（+0.49）の順であった。
- ・1 回目に比べ 2 回目の平均値の伸びが小幅だったのは、「⑥次の学習への意欲や見通しをもたせてから授業を締めくくっている」であった。
 - ・1 回目と 2 回目の平均値が 3.00 ポイント未満となったのは、「②日頃から『振り返り』のカードを使って授業をしている」「④児童生徒が学んだことを整理したり、自分の考えをまとめなおしたりする時間を保障している」の 2 項目であった。

IV 考察

結果から、動画活用と相互評価、学んだことをまとめ、確認する取組、次時への目標設定などから「振り返り」が充実してきたことや、授業のゴールからめあてや学習内容をデザインするようになったことが成果として挙げられた。これらのことから共通実践の取組は一定の効果があったと推察された。

しかし、「⑥次の学習への意欲や見通しをもたせてから授業を締めくくっている」の項目が小幅な伸びだったことから、「振り返り」が次の目標設定や次の学習の見通しに十分につながっていないことも推察された。さらには、「②日頃の振り返りカードの使用」や、「④児童生徒が学んだことを整理したり、自分の考えをまとめなおしたりする時間の保障」が、依然低い値となっていることから、振り返るための時間を確保し、自らの学びを振り返る取組がまだ十分な状態とは言えないと考えられた。今後は、学びをまとめ、積み重ねていく方法や、児童生徒が自ら学びを振り返り、学びを次時につなげていく方法について、授業実践を積み重ねながら検討していく必要がある。

【文献】

中央教育審議会（2016）：「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（答申）。

（IKEDA Kazuma, FUJII Yoshihiro）